

社会福祉法人さぽうと21

平成 24(2012)年度 事業報告書

— 平成 25(2013)年 5月 28日 承認 —

平成 24 年度 事業報告 p.1 ~ p.15

平成 24 年度 決算報告 p.16 ~ p.19

平成 24 年度 監査報告 p.20 ~ p.21

社会福祉法人さぼうとにじゅういち 平成 24 年度 事業報告

本年度は団体設立から 20 年という節目の年でありました。会の活動を支えて下さっている会員並びにご寄付下さる方々、ボランティアの方の中には、団体設立時、また会の前身であるインドシナ難民を助ける会(現・認定 NPO 法人 難民を助ける会 [AAR, Japan] (以下 AAR))の時代よりご支援下さっている方もおられます。当会の支援を受けながら高校や専門学校、大学で学んでいた初期のインドシナ難民の子弟が今や壮年世代となり、自身の出身国や日本において、社会人として立派に活躍しています。

本年度も、自分と同じような境遇にある後輩の育成のために役立ててもらいたいと寄付を申し出る連絡が国内外から複数件寄せられました。支援者・被支援者の枠を越え、相手が困っている時には自分が助けるという姿勢が、当会の支援を受けていた者の中に築かれ始めていることを実感するものがありました。

こうした学生の育成にご協力いただいておりますことに感謝を申し上げるとともに、そうした輪をより広げていけるよう、団体のホームページの再構築など、この節目の年を機に、新たな動きにも着手しております。

以下に平成 24 年度に実施した事業の概要を記します。

生活援助事業では、本年度も「生活支援プログラム」及び「坪井一郎・仁子学生支援プログラム」の両事業、「学習支援室」と「緊急経済支援」並びに「東日本大震災関連支援事業」を実施しました。

「生活支援プログラム」では、支援生からの希望もあり、日本郵便年賀寄付金の助成を受け、本年度の夏期研修会を宮城県の被災地にて行いました。年末の報告会では、被災地でのボランティア活動や被災者の方々と交流した経験を、自身の研究分野や就職後の計画に結びつけて発表しました。

「学習支援室」では、毎週土曜日の教室運営の他、文化庁の日本語教育委託事業を実施し、外部の日本語教室との連携も視野に入れた人材養成研修、初級者向けの日本語教室の開催、教材作成という三つの取り組みを行いました。また東京都共同募金会からの配分金により、パソコンのグループ学習始動に向けて、備品購入を行い、授業を開始いたしました。

昨年度から実施している東日本大震災関連支援事業については、本年度も企業・団体の皆さまから引き続き多大なるお力添えを賜り、AAR と協力しつつ、事業を継続いたしました。こうした支援活動に対して、平成 25 年 3 月 11 日付で厚生労働大臣より、感謝状を授与されました。当該事業に対して深いご理解と多岐に渡るお力添えを賜りましたこと、改めて心より御礼申し上げます。

「相談事業」では、第三国定住の継続や入管法改正に伴う在留カード制度の導入など、外国出身者を取り巻く状況が変化していることに伴い、各種研修や勉強会等を通して協力団体や行政との連携を強めつつ、相談者の対応にあたりました。

以下に、各事業の活動内容を報告いたします。

I. 生計困窮者に対する生活援助事業

(1) 生活支援プログラム

① 生活支援金の支給

高校や大学、専門学校に在籍するインドシナ難民や条約難民、中国帰国者及び日系定住者の子弟等で、経済的事情により就学が困難な者に対し、生活支援金を支給した。

支援金の支給は、2 か月に 1 度、銀行振込にて行った。

■ 2012 年度 生活支援生 総数 : 37 名

■ 支援金総額 : 4,920,000 円/年

■ 1 人あたり : 5,000 円 ~ 25,000 円/月

※10 月に支援辞退を申し出た 2 名の学生がおり、年度の途中で支援終了となった。

国 籍	人 数	学 年
ベトナム	23 名	■高校 13 名 ■専門 2 名 ■大学 8 名 ※ 途中辞退者 : 高校 1 名、専門 1 名
ラオス	2 名	■専門 1 名 ■大学 1 名
カンボジア	1 名	■高校 1 名 ■大学 1 名
ミャンマー (ビルマ)	2 名	■高校 2 名
中 国	2 名	■高校 1 名 ■大学 1 名
ブラジル	1 名	■大学 1 名
日 本 元ベトナム : 3 名 元韓国 : 1 名 元アフガニスタン : 1 名	5 名	■高校 2 名 ■大学 3 名

(順不同)

② 生活支援生への対応

i) 面談

夏期研修会では参加役員による個別面談の時間を設け、学業の様子や、進路についての考え、また家庭状況の変化について聞き取りを行った。その後事務局内でケースシェアを行い、対応が必要と思われる学生に対しては個別対応を行った。

ii) 支援金振込み確認葉書によるサポート

支援金振り込みの案内状と併せて、返信用に振込み確認葉書を送付した。前月の葉書にある支援生からの近況報告に対し、一言コメントを寄せるなどし、日々顔を合わせることの少ない支援生との関係づくりに努めた。

iii) エッセイの提出

支援生が自身の考えを整理して文章化するトレーニングの一つとして、また、支援生の関心や生活状況をよりよく理解することを目的として、エッセイの提出を義務付けた。優秀なエッセイを選定し、『Newsletter Vol. 50』に掲載した。

- テーマ：「仕事とわたし～社会で働くこと～」もしくは「就職活動について」
- 字数：800字程度

iv) 就職支度金の支給

生活支援生の中では申請者なし。

(2) 坪井一郎・仁子 学生支援プログラム（通称：坪井基金）

① 生活支援金の支給

大学3年生から大学院生までのインドシナ難民、条約難民、中国帰国者、日系定住者などの子弟を対象に、学業推進のための生活支援金を支給した。

支援金の支給は、毎月1回、銀行振込にて行った。

- 2012年度坪井基金支援生 総数：11名
- 支援金総額：6,060,000円/年
- 1人あたり：40,000円～60,000円/月

※10月から復学し、審査後半年間の支援が決定した2011年度支援生1名を含む。

国籍	人数	学年
ベトナム	4名	■大学 3名 ■大学院 1名
中国	4名	■大学 1名 ■大学院 3名
ナイジェリア	1名	■大学 1名
日本 元ブラジル 元アフガニスタン	2名	■大学 1名 ■大学院 1名

(順不同)

② 坪井支援生への対応

i) グループ面談

夏期研修会にて参加役員によるグループ形式での面談を行った。各々の学業の様子や、進路について話し合った。

ii) 支援金振込み確認葉書によるサポート

生活支援プログラムと同じ要領で、支援金を振り込む際に「振込みのお知らせ」と「振込み確認の葉書」を送付し、手書きのメッセージのやり取りを行った。

iii) エッセイの提出

坪井基金支援生としての学業の成果を知ることと、(Ⅲ) その他 であげる「支援生とのつどい」での研究内容に関する発表者を選定するため、エッセイの提出を義務付けた。提出されたエッセイは各人の研究報告として、支援生報告会のプログラムに挿入した。

■ テーマ：「被災地と私」もしくは「被災地で思ったこと」

※10月から復学した学生に関しては、休学中に取り組んだ業務に関する体験について書いた。

■ 字数：1500 ～ 2000 字程度

iv) 就職支度金の支給

正規職員としての就職が決定した支援生に対し、就職支度金を支給した。

■ 支給者数：7名

■ 支給総額：210,000円

■ 1人あたり：30,000円（大学生・大学院生同額）

(3) 学習支援室

① 日本語教室、パソコン教室、学校教科補習教室

外国出身者が、単に「必要最低限の日本語力を習得すること」だけを目指すのではなく、自立を後押しし、社会参加の道を拓いていくことを目的として教室を運営した。

■ 開催日：毎週土曜日 10:00 ～ 18:00

(必要性があると判断された場合は平日にも授業を実施した)

■ 開催場所：さぼうと21事務所会議スペース並びに難民を助ける会事務所

■ 受益者数：2,631名 (のべ)

■ 稼働ボランティア数：2,089名 (のべ)

■ 登録受講者数：約100名 (うち今年度新規登録者32名) 7歳 ～ 73歳

ミャンマー(ビルマ)以外は各1、2名

(カンボジア、スーダン、イラン、元中国、朝鮮、無国籍)

■ 登録ボランティア講師数：約90名 (うち今年度新規登録者44名)

※聖心女子大学 SHRET、上智大学ソフィアなんみんサービスのメンバーがボランティアとして参加。

【学習支援室活動状況】

	参加者(土曜日定期開催)			参加者(平日臨時対応)	
	開催数	受講者(人)	ボランティア(人)	受講者(人)	ボランティア(人)
4月	4回	222	159	18	18

5月	3回	160	119	15	15
6月	5回	266	214	18	18
7月	4回	212	159	18	18
8月	4回	162	112	79	52
9月	4回	224	164	21	21
10月	3回	149	136	21	18
11月	3回	127	113	15	15
12月	4回	157	129	28	33
1月	4回	200	158	34	40
2月	4回	216	159	18	18
3月	5回	233	183	18	18
計	47回	2,328	1,805	303	284

*8月、12月・1月は長期休暇のため、平日支援は特別スケジュールにて実施

【受講者動向】

i) 進学

都立高校1名（来日から2年）・都立定時制高校1名（来日から2年半）・
専門学校1名（都立高校卒業）・職業訓練校1名（都立定時制高校卒業）・
看護専門学校1名（高卒認定試験利用）・大学1名（難民高等教育プログラム）

ii) 日本語能力試験

N1 合格1名・N2 合格4名・N3 合格3名・N4N5 受験者なし

② 受講者、ボランティア講師向け行事等の実施

受講者の学習意欲向上、日本語力の向上、ボランティアの指導力強化、参加者相互の交流、情報交換等を目的として、下記の通り行事等を実施した。

4月	—
5月	●26日（土）【川柳教室開催】 講師：岡野ようこ氏（学習支援室ボランティア）／参加者：11名
6月	●19日（土）【おりがみ教室参加】 会場：お茶の水折り紙会館／参加者：10名 ●23日（土）・30日（土）【AAR被災地七夕飾り作成】協力者：約50名
7月	●7日（土）・14日（土）【七夕短冊・飾り作成】 ●14日（土）・21日（土）【被災地応援和紙うちわ作成】 ●28日（土）【川柳コンテスト表彰式】＊冊子100部作成
8月	●25日（土）【ミニ落語会】出演：柳亭芝楽師匠／参加者：約40名

9月	●22日(土)【BBQとおしゃべりの会】場所：木場公園 / 参加者：52名
10月	●13日(土)【ワークショップ「インターネットセキュリティ」】 企画実施者：IBM所属のボランティア6名 / 参加者：16名 *活動ボランティアの実績、ワークショップの開催実績により、IBMより10万円相当のデジタル一眼レフカメラの購入費用を助成された。
11月	●3日(土・祝)【秋の日帰りバスツアー】 場所：ひたち海浜公園+大洗等 / 参加者：63名
12月	●8日(土)【ボランティア勉強会：外国ルーツの子ども達のココロって?】 講師：鶴川晃 ^{うかがく} 氏(大正大学講師) / 参加者：20名 ●15日(土)【学習発表会】 場所：さぼうと21 / 参加者：78名
1月	●19日(土)【ボランティア講師顔合わせ会】 参加者：47名 ●【書き初め】*さぼうと21事務所にて展示
2月	
3月	●2日(土)【源泉徴収票についての勉強会】参加者：8名 ●9日(土)【品川区防災フェアへの参加】 参加者：16名 【南三陸在住 佐々木アメリカ氏講演会】参加者：43名 ●23日(土)【中高生の親の会】参加者：11名 【勉強会：「メイクアップセラピスト」って何?】 説明者：尾崎憲子氏(支援室ボランティア) 参加者：10名 ●30日(土)【お餅を食べる会】 場所：さぼうと21

③ 委託事業、助成金受託事業等の実施

i) 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

- 事業名：「外国人住民・日本人住民 共育ち日本語教室展開事業」
- 実施期間：2012年6月25日-2013年3月20日
- 目的：日本に暮らす外国人住民と日本人住民が共に学び、共に社会の一員として成長できるような日本語教室を展開していくこと。また、国の施策の一環として文化庁が主体となって進めている「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」につき、現場での実践に基づいた発信をしていくこと。
- 運営委員会：高橋敬子(委員長)、奥原淳子、田中美穂子、ディラン恵子、中村陽子、平村和美、松村志歩、矢崎理恵
- 事業決算額：1,554,960円
- 事業内容：以下の3つの取り組みを企画、実行した。

●取組1：日本語教室（「難民のための参加型初級日本語講座」）の設置運営

期間：2012年11月17日－2013年2月23日（1回2時間半×12回＝30時間）

場所：レンタルスペースゴブリン

受講者の総数：13人（国籍は全てミャンマー）

講師：松野志歩 / 講義補助者：平村和美

特徴：「標準的なカリキュラム案」をベースに、対話・相互理解に重きをおいた日本語教室を設置運営した。日本語学習を受ける機会が少ない難民等を対象として、視聴覚教材を活用した授業を実施した。

●取組2：日本語教育を行う人材の養成・研修

（「日本語教室ボランティア 振り返り&学び合い講座」）の実施

期間：2012年9月2日－2013年3月3日（1回3時間～4時間半×5回＝20時間）

場所：さぼうと21

受講者の総数：30人

講師：加藤早苗氏・北村祐人氏・内藤真知子氏・横沢由実氏・澤田幸子氏・吉田聖子氏・西原鈴子氏

特徴：「標準的なカリキュラム案」を利用し、それぞれの教室のニーズや希望にあった日本語教室の設置・運営、日本語教育の実践のできるファシリテーター養成を目指し、日頃の教室活動の振り返り、課題掘り起こし、参加者一人一人の実践を盛り込んだ研修を実施した。

●取組3：日本語教育のための学習教材（「生活場面切り取り動画」）の作成

期間：2012年9月－2013年3月

作成動画：全20タイトル

主な作成者：平村和美・矢崎理恵

特徴：「標準的なカリキュラム案」活用に有効と思われる生活場面切り取りの動画教材を作成した。「標準的なカリキュラム案」をベースに、対話・相互理解に重きをおいた日本語教室を設置運営した。日本語学習を受ける機会が少ない難民等を対象として、視聴覚教材を活用した授業を実施した。

ii) 赤い羽根共同募金会全都A配分

■ 事業名：「パソコン利用による学習支援室新事業」

■ 実施期間：2012年4月1日－2013年3月31日

■ 実施場所：さぼうと21

■ 目的：日本に定住する外国出身者の増加、多様化、在住期間の長期化といった状況を受け、パソコンをより有効に活用することによって、新しい形での日本語支援や学習支援の展開を図り、外国出身者のニーズや希望により広く深く対応していくこと。

- 配分金額：1,190,000 円
- 事業内容：ノート型パソコン、デスクトップ型パソコン、各種ソフト等を購入し、「日本語支援」「学校教科支援」「パソコン支援」等において、PCを有効に利用した活動を実施した。とくに「パソコン支援」においては全12回のグループ授業を計2回実施した。また、学習支援の中でも、とくに受験生への支援において、学校情報や過去問題等の入手、弱点克服のための教材入手等を効率よく実施できた。

④ その他

i) 品川区・東京都との連携強化

- 品川区主催「地域国際交流懇談会」出席
日時：2012年5月22日（土）／ 場所：品川区
内容：外国人と関わりのある、区内の大学、NPOなどが集い、防災訓練をテーマに意見交換。
- 品川区主催「第1回地域情報発信のための研修会」協力参加
日時：2012年6月9日（土）／ 場所：品川区第二庁舎
内容：区内の外国人を対象にした「新しい在留制度」「仮住民票」「コールセンター」についてのセミナー。
- 東京都生活文化局主催「在住外国人支援のための合同連絡会議」出席
日時：2012年11月27日（火）／ 場所：消費生活総合センター
内容：「災害時における外国人への情報提供について」をテーマとし、行政、地域の国際交流協会、外国人支援団体等が、各地域における外国人に対する情報提供の充実を図るため、ブロックに分かれて討議を行った。
- 品川区主催「防災ツアー」参加（※P.9を参照のこと）

ii) 大正大学教育実習生の受け入れ

- * 大正大学からの依頼を受け、本年度より実施
- 期間：春学期4月－7月・秋学期10月－1月（1人90時間1学期）
- 実習生：大正大学人間学部人間環境学科のびのびこどもプロダクトコース
2年生、3年生 春学期4名、秋学期4名
- 実習内容：学習支援室を中心に、日本語支援、学習支援のアシスタント、教務・事務作業等を行う。

iii) ボランティア・学習者による勉強会やクラブ活動への対応

ボランティアや学習者が主体的に行うイベントやクラブ活動に関する相談を受け、必要に応じて場所の手配等を行った。現在、「ギタークラブ」と「にほんごビルマ語クラブ」の2グループが継続して活動をしている。

(4) 緊急経済支援

① 緊急就学支援

■ 支給件数：1件 [国籍:日本(2012年就籍) / 性別:男性 ※支給総額：40,000円]
※ 授業料の一部として、フリースクール「特定非営利活動法人東京シュール」に支払い

【経緯】

未就籍のため教育を受ける機会が得られなかった未成年者の就学支援について、社会福祉法人日本国際社会事業団（以下 ISSJ）より相談があり、2011年11月より支援を開始。本年度もフリースクールの学費の一部を負担した。

その間、役員による面談を実施し、ISSJ 並びにフリースクールの担当教官と協議の上、2012年6月末日で緊急支援を終了した。

■ 貸付件数：0件

② 入学支度金制度の導入

2013年度の生活支援金受給決定者のうち、特に入学時に必要な学費以外の費用の負担が大きい者に対して、一時金を支給することを決定した。

制度の対象者への通知が3月下旬となったため、2013年度予算からの支出となる。

(5) 東日本大震災関連支援事業

2011年3月11日の東日本大震災発生以後、本年度も多くの支援者の方々のお力添えにより、AARと協力しつつ、主に岩手県、宮城県の被災地に対する支援活動を行った。個人情報に配慮し、これまでにご協力くださった主な団体・企業を下記に紹介させていただく。

(五十音順、敬称略)

企 業 / 財 団	株式会社ミリオンインターナショナル
	公益財団法人野村生涯教育センター
	サンキョー株式会社
	高野興業株式会社
	鳴子ホテル
	宮脇書店 鹿島台店（有限会社テルイ）
	山ふところの宿みやま
	有限会社タニパテントシステムズ

行政 ／ 団体 他	稲井オヤジの会
	女川町観光協会
	学研有志の皆さま
	東北大学国際交流支援室
	宮城県国際化協会
	宮城県青年会館
	鳴子国際交流協会
その他にも、多くの団体・個人の皆様からご支援をいただきました	

① コンテナハウスの寄贈

- 寄贈先：岩手県大槌町 桜木町仮設住宅団地内「上野商店」（9月 設置）
※ 地元で生産した食品や物品、福祉施設の授産品等の販売を行う。

宮城県気仙沼市 唐桑地区の漁師組合「蔵内之芽組」（7月 設置）

- ※ 水産加工や袋詰め作業に従事する漁師や漁港の方々の休憩所兼集会所として利用される。

② 琴など邦楽器の寄贈

音楽教科で必須となった邦楽器が不足していた下記の学校に対して、AAR と協力して楽器を寄贈し、送料等を負担した。

- 寄贈先：宮城県大船渡立第一中学校（2012年5月21日 輸送）

③ 古今亭駿菊師匠・三遊亭金八師匠による巡演落語会

被災地にて寄席を催す活動を続けている古今亭駿菊、三遊亭金八両師匠と共に、下記の宮城県南部の一市三町を訪問し、仮設住宅の集会所等で合計6回の巡回公演を行い、落語の他、腹話術や寄席踊りなどを仮設住宅入居者の方々に楽しんでいた。

- 実施日：2012年7月11日（水）～12日（木）

- 会 場：宮城県 岩沼市・亘理町・丸森町・山元町の仮設住宅等の集会所

④ 全国から集まった蔵書の寄贈（2012年8月27日 第1回寄贈・以降継続）

宮城県内の仮設住宅の集会所や福祉施設などに設置する図書コーナー及び、当会が寄贈したコンテナハウス図書室のために、蔵書の提供を全国に呼び掛けた。集まった本は、当会支援生が夏期研修会中に本棚と共に各地へ届けた。

⑤ 夏期研修会での鳴子温泉交流会の開催

宮城県で開催した当会支援生の夏期研修会期間中、罹災後各地にて避難生活を送っている宮城県石巻市北上町十三浜吉浜地区出身者 16 名を鳴子温泉に招き、支援生や当会関係者との交流会を行った。

■実施日：2012 年 8 月 27 日（日）

■会 場：宮城県 大崎市 鳴子ホテル

⑥ チャリティコンサート

i) 2012 年 6 月 24 日(日)～26 日(火):アンサンブル MOMO チャリティコンサート

※女性重唱グループによる被災地訪問コンサート

[岩手県・宮城県内の高齢者施設など 6 ヶ所]

ii) 2012 年 10 月 7 日(日):ピアノ発表会とトランペット・コンサートの開催

※トランペット奏者小林好夫氏のご協力により、岩手県陸前高田市で全壊したピアノ教室での発表会を開催 [田村ピアノ教室]

iii) 2012 年 3 月 20 日(水):被災地おかあさんコーラス

※被災された方々の合唱サークル活動を支援するためのチャリティコンサートの運営費用を一部負担。指揮：辻秀幸氏 [すみだトリフォニーホール]

II. 生計困窮者に対する相談事業

(1) 相談事業の実施

■ 相談件数：72 件

原則として、日曜祝日を除く 10:00～18:00、電話、面談、Eメールで、相談を受け付けた。

(2) 職員研修の実施

i) 広報勉強会への参加

日本 NPO センター（NPO 広報研究会）主催の広報に関する勉強会に出席し、分かりやすい行事案内チラシやプレスリリースの作成方法等について学んだ。

ii) 在住外国人支援のための東京都合同連絡会議への出席

都内の外国出身者を支援する団体・学校との合同会議（東京都主催）に出席した。活動地域ごとにブロックに分かれて協議を行うが、本年度は当会の学習支援室コーディネーターがファシリテーター役を務めた。協議の中では主に、東日本大震災後の外国人への情報提供に係る取組や課題について意見交換を行った。

Ⅲ. その他

(1) 夏期研修会の実施

東日本大震災発生直後より、支援生からも日本社会の一員として被災地のために何かボランティア活動をしたいとの声が多々挙がっていた。

こうした状況を踏まえ、本年度は日本郵便 年賀寄附金助成を受け、宮城県仙台市を拠点に、亘理町、山元町、女川町、気仙沼市の被災地域を訪問して研修会を実施した。

研修会の全体概要については以下の表のとおりである。

2 日目の図書寄贈プロジェクトに関しては、震災直後より支援活動を行っている AAR の仙台事務所と連携し、AAR が支援物資の配布や専門家の派遣をしている各施設・仮設住宅においてニーズ調査を行った。

その中で、文庫本や月刊雑誌、各種趣味の本などの書籍を希望する声が多く聞かれたこともあり、各施設への図書スペースの設置を行うことになった。

寄贈する書籍に関しては日本全国の個人・企業の方、また被災地の書店の協力を仰ぎ、1 ヶ月に渡って本の募集を行った。最終的に約 3000 冊に及ぶ様々な書籍が寄せられ、研修会では、支援生と当会役職員並びに関係者が本棚の組み立てと設置、本の清掃と寄贈という一連のボランティア活動を行った。

また親族や親しい方と離れて避難生活を送られている宮城県石巻市北上町十三浜吉浜地区ご出身の被災者の方々を鳴子温泉に招き、支援生との交流を兼ねた会を開催した。

3 日目には、震災直後より県内在住外国人の支援を中心に行ってきた宮城県国際化協会や東北大学の関係者をパネリストとして迎え、震災後の日本社会のあり方についてディスカッションを行った。

また研修会中は、支援生の学業の様子や生活環境の変化を把握するため、例年同様、役員による個人面接を実施し、個別にアドバイスをを行った。

開催日	2012 年 8 月 26 日（土）－ 29 日（月）3 泊 4 日
宿泊	宮城県青年会館（宮城県仙台市）
参加者	80 名（当会支援生 27 名を含む）
助成	平成 24 年度 日本郵便 年賀寄附金
プログラム	
1 日目	開会式 被災地訪問に関する勉強会 ■場所：宮城県青年会館 大会議室 ■講師：松舘 忠樹 氏（ジャーナリスト、元 NHK 仙台支局長）

2 日目	<p>I. 図書寄贈プロジェクト</p> <p>■訪問先・活動場所</p> <p>1) <u>亘理・山元地域グループ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手芸工房「WATALIS」 ・高齢者施設「ささえ愛山元」 ・仙台空港（震災被害跡地） <p>2) <u>女川地域グループ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・石巻市立門脇小学校（震災被害跡地） ・女川町「地域福祉センター」 ・きぼうの鐘商店街（仮設商店街） <p>3) <u>気仙沼地域グループ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼鹿折復幸マルシェ（仮設商店街） <p>4) <u>吉浜グループ</u>（吉浜の被災者 16 名を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災者の方々と共に鳴子温泉へ <p>II. 鳴子温泉交流会 ～宮城県石巻市・吉浜地区の方々をお迎えして～</p>
3 日目	<p>夏期研修会記念事業シンポジウム</p> <p>日本の国際化社会を考える集い ～定住する 8ヶ国出身の支援生とともに～</p> <p>■場所：宮城県青年会館 大会議室</p> <p>■パネリスト（※五十音順・敬称略）</p> <ul style="list-style-type: none"> 石垣 政裕（東北大学大学院経済学研究科） 大村 昌枝（宮城県国際化協会） 末松 和子（東北大学大学院経済学研究科） 水上 洋一郎（日韓文化協会顧問、元東京入国管理局長） 山田 寛（元嘉悦大学教授、元読売新聞アメリカ総局長） <p>モデレーター：吹浦 忠正（当会理事長）</p>
4 日目	<p>グループワーク</p> <p>グループごとにボランティア活動の様子を報告</p> <p>訪問先の方々に寄せ書きメッセージを作成</p> <p>閉会式</p>

(2) 広報活動

① ニュースレターの発行

広報誌『Support21 Newsletter』を年 3 回発行した。本年度支援生の紹介、夏期研修会や学習発表会の報告、支援生によるエッセイなどを掲載し、毎回主に会員・寄付者宛に約 1100 部を発送した。

■ 発行月：Vol. 48／2012 年 7 月、Vol. 49／11 月、Vol. 50／2013 年 3 月

② ホームページの更新・再構築

ホームページを通じた当会主催・共催の行事や支援生の募集、各種情報の提供など、随時更新を行った。またそれと並行し、難民等の定住外国出身者の状況に対する社会的理解を深め、支援者の拡充を図ること、及び、定住外国出身者によりよい情報提供を行うことを目的に、ホームページの再構築作業を進めてきた。
(新たなホームページは 2013 年 5 月末に完成見込み。)

③ コンサートの開催

AAR との共催で、下記の通りチャリティコンサートを開催。(※被災地支援)

- i) 2012 年 4 月 1 日(日):第 6 回『加藤タキ・チャリティサロンコンサート』
- ii) 2012 年 6 月 19 日(火):『鼓童と和太鼓の仲間たち』[サントリーホール] ※
- iii) 2012 年 9 月 13 日(木):『忘れないで 3.11』[サントリーホール] ※
- iv) 天満敦子ヴァイオリン・リサイタル『明日に繋ぐ祈り』 ※

■東北公演 (合計 6 ヲ所)

大船渡・陸前高田公演:2013 年 3 月 22 日(金)、女川・石巻公演:3 月 23 日(土)
南相馬公演:3 月 24 日(日)、福島公演:3 月 25 日(月)

■東京公演:3 月 29 日(金)[浜離宮朝日ホール]

④ 支援生報告会 の実施

本年度は日本郵便 年賀寄附金助成を受け、大学生・大学院生の支援生による個人発表に加えて、現在社会人として活躍する支援生 OB・OG を迎えてパネルディスカッションを行った。

第 1 部の個人発表では、夏の研修会で被災地を訪問し、ボランティア活動や被災者の方々と交流した時の経験を、自らの研究分野や卒業後の進路と結び付けて報告した。

第 2 部のパネルディスカッション(司会:山田 寛理事)では、「日本の国際化を考える」というテーマのもと、日本での生活や言葉の問題、また進学や就職の際、外国出身者ゆえに苦労した点などについて支援生 OB・OG が自らの体験をもとにディスカッションした。

テーマ	在日難民などが語る 今、日本社会に伝えたいこと
開催日	2012 年 12 月 26 日(水) 14:00 ~ 17:30 (18:00~ 懇親会)
場 所	日本記者クラブ(東京都千代田区)
参加者	113 名(支援生と支援生 OB・OG 14 名を含む)
協 力	AAR Japan [認定 NPO 法人 難民を助ける会] 特定非営利活動法人 東京コミュニティカレッジ
助 成	平成 24 年度 日本郵便 年賀寄附金

⑤ PC ネットワーク環境の整備と会員管理システムの改良

事務作業の効率化を図るため、不具合のあったコンピューター・ネットワーク環境を整備した。また会員・寄付者の現状を把握し、今後の会員拡充に生かすため、会員管理ソフトを新たに構築した。

⑥ 定住外国人学生の受け入れに関する専門学校へのアンケート

難民等をはじめとする定住外国出身者の進路選択の幅を広げることを目的に、都内の専門学校（約 500 校）を対象に、定住外国人学生の入学要件及び学費減免措置に関するアンケートを実施した。反応のあった 83 校の回答をもとに、支援生の進学先の開拓や進路ガイダンスの実施などについて、次年度以降検討を進めていくことになった。

⑦ 企業の CSR 部門へのアンケート調査

団体として安定した財源を確保するために、これまで積極的に展開してこなかった企業との連携が可能かどうか、都内の企業（約 750 社）の CSR 部門に対し、アンケートを実施した。反応のあった 15 社の回答をもとに、法人会員としての入会の他、職場見学の受け入れ、当会研修会などへのボランティアの派遣など、今後改めて各社に対し協力依頼をしていくことになった。

(3) パートナーシップ

難民および庇護希望者支援団体の連合体であるなんみんフォーラム（FRJ）への参加を通して、支援を必要とする方に関する情報の共有や各団体との連携を行った。また難民の実態調査として UNHCR が行った AGDM（参加型合同調査）に協力した。

(4) 企業のご協力による団体活動の充実

① 日本アイ・ビー・エム株式会社 コミュニティー・グランツ・プログラム

当会の学習支援室でボランティア講師として活動して下さっている社員の方が推薦人となり、団体の活動を充実・推進するための物品購入用の資金援助を受けた。

- 助成金額：100,000 円（335 円自己負担）
- 購入物品：デジタルカメラの購入。学習支援室でのオリジナル教材の作成および団体広報用・記録用写真の撮影のため。

(5) 助成金事業

① 平成 24 年度 日本郵便 年賀寄附金 [活動・一般プログラム]

事業名：震災復興時における多文化共生社会促進のための定住外国人援事業
実施期間：2012 年 4 月 - 2013 年 2 月末（※P. 12～14 を参照のこと）
配分金額：3,815,000 円

② 平成23年度 共同募金 第二次A配分 [整備費・特別事業費] (赤い羽根共同募金)

事業名：パソコン利用による学習支援室新事業

実施期間：2012年4月 - 2013年3月末 (※P.10を参照のこと)

配分金額：1,190,000円

③ 平成24年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

事業名：外国住民・日本人住民 共育ち日本語教室展開事業

実施期間：2012年6月 - 2013年3月末 (※P.9～10を参照のこと)

委託事業費：1,554,960円

(6) 理事会・評議員会

平成24年度は定例理事会・評議員会に加え、臨時の理事会・評議員会を下記の通り開催した。

■ 第1回 定例 評議員会：5月29日(火) 10:00～11:00

第1回 定例 理事会：5月29日(火) 11:00～12:00

■ 臨時 評議員会：10月23日(火) 13:30～14:30

臨時 理事会：10月23日(火) 14:30～15:30

■ 第2回 定例 評議員会：3月11日(月) 13:30～14:30

第2回 定例 理事会：3月11日(月) 14:30～15:30

平成24年度 決算報告

貸借対照表			
平成25年3月31日現在			
			(単位:円)
科 目		金 額	
【資産の部】			
流	動	資	産
現	金	預	金
			44,634,383
前		払	金
			0
立		替	金
			0
流動資産合計			44,634,383
固	定	資	産
基	本	財	産
	そ	の	他
		基	本
		財	産
			100,000,000
基	本	財	産
		合	計
			100,000,000
そ	の	他	の
		固	定
		資	産
			118,125
		什	器
			17,600
		土	地
		長	期
		保	有
		目	的
		有	価
		証	券
			100,000,000
そ	の	他	の
		固	定
		資	産
		合	計
			100,135,725
固定資産合計			200,135,725
資産合計			244,770,108
【負債の部】			
	未	払	金
			1,032,961
	預	り	金
			136,492
流動負債合計			1,169,453
負債合計			1,169,453
【正味財産の部】			
正	味	財	産
(う	ち	基
		本	金
)	243,600,655
		(う
		ち	当
		期	正
		味	財
		産	増
		加	額
)	4,146,962
負債及び正味財産合計			244,770,108

事業活動計算書

平成24年 4月 1日から平成25年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常増減の部		
① 経常収益		
会 費 収 入		
正 会 員 会 費 収 入		1,480,000
補 助 金 等 収 入		
民 間 助 成 金 収 入		1,290,000
公 的 助 成 金 収 入		4,117,330
寄 付 金 収 入		
寄 付 金 収 入		24,685,931
資 産 受 贈 益		0
受 取 配 当 金		
受 取 配 当 金		15,000,000
雑 収 入		
受 取 利 息	1,206,328	
雑 収 入	167,837	1,374,165
合 計		47,947,426
② 経常費用		
事 業 費		
生 活 相 談 費	3,415,042	
生 活 支 援 金		
生 活 支 援	5,069,490	
生 活 支 援 坪 井 プログラム	6,388,830	11,458,320
生 活 援 助 費		3,467,238
助 成 金 事 業 費		4,428,459
震 災 事 業 費		10,637,638
夏 期 研 修 会 発 表 会		3,914,531
会 議 費		10,960
会 費		20,000
旅 費 交 通 費		405,750
福 利 厚 生 費		0
通 信 運 搬 費		380,930
書 籍 費		57,502
減 価 償 却 費		127,575
消 耗 品 費		6,154
印 刷 製 本 費		452,283
諸 謝 金		0
保 険 料		0
支 払 手 数 料		53,195
雑 費		16,933
管 理 費		38,852,510
給 料 手 当	1,984,238	
法 定 福 利 費	894,836	
旅 費 交 通 費	1,590	
福 利 厚 生 費	52,791	
諸 謝 金	111,111	
通 信 運 搬 費	451,200	
会 議 費	18,762	
消 耗 什 器 備 品 費	231,040	
事 務 所 賃 借 料	600,000	
外 部 監 査 費	100,000	
支 払 手 数 料	73,095	
印 刷 機 費	427,979	
租 税 公 課 費	0	
雑 費	1,312	4,947,954
合 計		43,800,464
当 期 経 常 増 減 額		4,146,962
当 期 正 味 財 産 増 減 額		4,146,962
前 期 繰 越 正 味 財 産 額		239,453,693
期 末 正 味 財 産 合 計 額		243,600,655

資金収支計算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異(予算-決算)	備考
【事業活動収支の部】				
1. 事業活動収入				
会費収入	1,500,000	1,480,000	20,000	
正会員会費収入	1,500,000	1,480,000	20,000	
補助金等収入	5,407,000	5,407,330	-330	
民間助成金収入	1,290,000	1,290,000	0	
公的助成金収入	4,117,000	4,117,330	-330	
寄附金収入	25,000,000	24,685,931	314,069	
寄附金収入	25,000,000	24,685,931	314,069	
受取配当金	15,000,000	15,000,000	0	
受取配当金	15,000,000	15,000,000	0	
雑収入	1,200,000	1,374,165	-174,165	
受取利息	1,200,000	1,206,328	-6,328	
雑収入		167,837	-167,837	
事業活動収入合計(A)	48,107,000	47,947,426	159,574	
前期繰越収支差額	39,190,393	39,190,393	0	
収入合計(B)	87,297,393	87,137,819	159,574	
2. 事業活動支出				
事業費	49,027,000	38,724,935	10,302,065	
生活支援金	12,400,000	11,458,320	941,680	
生活相談費	3,820,000	3,415,042	404,958	
生活援助事業費	2,900,000	3,467,238	-567,238	
助成金事業費	5,600,000	4,428,459	1,171,541	
震災事業費	19,180,000	10,637,638	8,542,362	
夏期研修会・発表会	3,500,000	3,914,531	-414,531	
福利厚生費	10,000		10,000	
旅費交通費	330,000	405,750	-75,750	
通信運搬費	550,000	380,930	169,070	
会議費	10,000	10,960	-960	
消耗品費	10,000	6,154	3,846	
印刷製本費	500,000	452,283	47,717	
ソフトウェア購入費	50,000	0	50,000	
書籍費		57,502	-57,502	
諸謝金			0	
保険料	7,000	0	7,000	
会費	30,000	20,000	10,000	
支払手数料	100,000	53,195	46,805	
雑費	30,000	16,933	13,067	
管理費	4,989,111	4,947,954	41,157	
給料手当	2,190,000	1,984,238	205,762	
法定福利費	850,000	894,836	-44,836	
通信運搬費	300,000	451,200	-151,200	
旅費交通費	3,000	1,590	1,410	
消耗品費	300,000	231,040	68,960	
事務所賃借料	600,000	600,000	0	
外部監査費	105,000	100,000	5,000	
諸謝金	111,111	111,111	0	
福利厚生費	30,000	52,791	-22,791	
会議費	10,000	18,762	-8,762	
印刷機費	400,000	427,979	-27,979	
租税公課		0	0	
支払手数料	80,000	73,095	6,905	
雑費	10,000	1,312	8,688	
予備費	3,000,000	0	3,000,000	
事業活動支出合計(C)	57,016,111	43,672,889	13,343,222	
固定資産取得支出	0		0	
什器備品購入			0	
当期支出合計(D)	57,016,111	43,672,889	13,343,222	
当期収支差額(A-D)	-8,909,111	4,274,537	-13,183,648	
次期繰越収支差額(B-C)	30,281,282	43,464,930	-13,183,648	

財 産 目 録			
平成25年3月31日 現在			
			(単位:円)
科 目	金 額		
【資産の部】			
流 動 資 産			
現 金 手 許 有 高		83,617	
普 通 預 金			
三井住友銀行目黒支店(3口座)	26,522,903		
三菱東京UFJ銀行目黒支店	5,057,405		
みずほ銀行目黒支店	326,399		
普通預金合計		31,906,707	
郵便振替口座		12,644,059	
現金預金計		44,634,383	
流動資産合計			44,634,383
固 定 資 産			
基 本 財 産			
その他の基本財産(国債)		100,000,000	
その他の固定資産			
長期保有目的有価証券(株券)	100,000,000		
印刷機	118,125		
土地	17,600		
その他の固定資産合計		100,135,725	
固定資産合計			200,135,725
資産合計			244,770,108
【負債の部】			
預 り 金			
社会保険料		69,010	
源泉所得		67,482	
未 払 金			
東日本震災事業費3月分		815,000	
活動パンフレット等制作・発送費		217,961	
流動負債合計			1,169,453
負債合計			1,169,453
【正味財産の部】			
正 味 財 産			243,600,655
(うち基本金)			100,000,000
(うち当期正味財産増加額)			4,146,962
負債及び正味財産合計			244,770,108

平成 24 年度 監査報告


独立監査人のレビュー報告書

平成 25 年 5 月 16 日

社会福祉法人さぼうとにじゅういち
理 事 会 御 中

鳳友公認会計士共同事務所

公認会計士

増子 正明 

当監査人は、社会福祉法人さぼうとにじゅういちの委嘱に基づき、社会福祉法人さぼうとにじゅういちの平成 24 年会計年度（平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで）における計算書類、すなわち、貸借対照表、事業活動計算書及び資金収支計算書並びに財産目録についてレビューを行った。これらの計算書類の作成責任は理事者にあり、当監査人の責任は、独立の立場から実施したレビューに基づき計算書類に対する意見を表明することにある。

当監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められるレビューの基準に準拠してレビューを行った。レビューの基準は、当監査人に計算書類に重要な虚偽の表示がないかどうかの限定的な保証を得るため、レビューを計画し実施することを求めている。レビューは、主として理事者及び職員等への質問及び財務情報の分析的手続に限られ、したがって、監査に比較してより限定的な保証を与えるに過ぎない。当監査人は、監査を実施しておらず、したがって、監査意見を表明するものではない。

レビューの結果、上記の計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる社会福祉法人会計の基準に準拠して、社会福祉法人さぼうとにじゅういちの平成 24 年会計年度の損益及び収支の状況並びに同会計年度末日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示していないと認められる事項は発見されなかった。

社会福祉法人さぼうとにじゅういちと当監査人との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監 査 報 告 書

社会福祉法人 さぼうとにじゅういちの 2012 年度（平成 24 年度）の業務なら
びに財政に関する監査を実施した結果、公正かつ適正に事業が実施され、財政
が運営されているものと認め、ご報告申し上げます。

平成 25 年 5 月 22 日

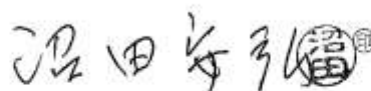
社会福祉法人 さぼうとにじゅういち

監事



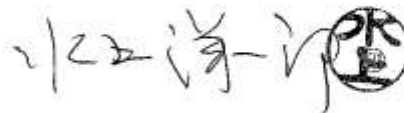
稲岡 稔

監事



沼田 安弘

監事



水上 洋一郎